



柳葉小



三重県神道青年会報 第45号

創立70周年特別記念講演

入場無料!!

皇室ジャーナリストとしてご活躍中の久能靖先生を講師にお迎えして講演会を開催いたします。御大札後の貴重な話も聞けるかも!? ぜひお越しください!!

開催日：新元号元年 8月24日 (土)

場所：三重県総合文化センター
多目的ホール

演題：「知られざる皇室」(仮題)

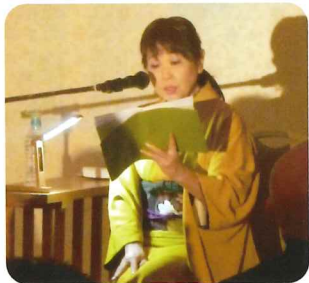
講師：久能 靖 先生
(皇室ジャーナリスト)



略歴

昭和11年生まれ。東京大学文学部卒業後、日本テレビ放送網(株)に入社、アナウンサーとして主にニュース部門を担当。昭和47年、報道部に配転。警視庁、労働省、自治省、文部省、自民党、国会担当記者を歴任。また、様々な番組のキャスターも務める。平成2年9月フリーとなり、「皇室日記」キャスターを長年務め現在、皇室ジャーナリストとして活躍。

【主な中継】東大紛争、成田闘争、新宿騒乱事件、羽田闘争、浅間山荘事件、日中国交回復。
【著書】『高円宮殿下』『浅間山荘事件の真実』等多数



我々にとって馴染みのある神話であるが、声の専門家でもある先生の千変万化する語りによって、見事にその世界に引き込まれ、まるで神話の情景を間近にみているかのような迫力であった。

今後の事業

創立七十周年奉告祭

平成三十一年四月 三十年度

定例総会にあわせて斎行

特別記念講演(上記参照)

ワークショップの開催

・ミニ鳥居作り

・しめ縄作り
第四十回お宮の子供会にあわせて

大嘗祭・京都御所・御陵等の施設見学

創立七十周年記念誌の発行



記念式典

平成三十一年三月二十五日(月)三重県神道青年会創立七十周年記念式典が「繫心(けいしん)」を主題にプラトンホテル四日市に於いて、県内外各地より総勢一二三名の出席にて開催された。

開式儀礼に続き会長より式辞を述べた。本会の活動に対して深くご理解とご協力を賜ったご来賓の方々を始め皆様方に感謝の意を述べ、一層努力と研鑽を重ね斯界の

発展に邁進すると挨拶した。次に御來賓を代表して神宮大宮司代理神宮禰宜 葦津健次郎様、神社庁長塚原徳生様、神青協会会長佐野巖様、第七代会長神田信忠様より御祝辞を頂戴した後、万歳奉唱を行い閉式となった。



記念公演

記念式典後、記念公演で声優の小山菜美先生による「日本神話イザナミ語り」が行われた。先生は、声優として「一休さん」の桔梗屋弥生役でデビューされ、その後「Dr.スランプ・アラレちゃん」のアラレ役などを演じられた。

イザナミに扮した先生の語りによって、聞き手に日本神話が伝えられるという構図が造られており、今回の公演では天地開闢から天孫降臨の直前までの内容が語られた。

稲作の実施

御田植祭

四月二十二日(日)、鈴鹿市の佐野順章氏の田圃の一面をお借りして、田圃の傍らに祭壇を舗設、御田植祭を斎行。苗と田圃をお祓いし、稲の生育と豊穣を祈願した。祭典後、水田に入り、泥濘に足を取られ思うように体が動かせず隣の人と泥を飛ばし合



いながら慣れない手つきで植え終えた。その田圃を見れば、苗一株の量が不揃

いな状態であり、整然と挿苗された周りの水田とは違う光景を前に談笑する場面もあった。植えたばかりの小さな苗を見て、無事に育ち収穫出来る日を心待ちにしたのであった。

抜穂祭・稲刈り

八月十九日(日)、第三十九回お宮のこども会に合わせて抜穂祭、稲刈りを行った。

先ず、会場の伊奈富神社に於いて、抜穂祭並びに安全祈願祭を斎行し、田圃へ向かった。会員から説明を受けた子供たちは、一株一株丁寧に稲を刈り、黄金色に輝く稲穂を手



歴代役員OB会



平成三十年九月十八日、津都ホテルにおいて三重県神道青年会歴代役員OBをお招きし(総勢四十七名が参加)開催された。当日は三重県神道青年会創立七十周年記念事業の趣旨説明を行うとともに懇親会が行われた。

始めに全員で物故会員に対して黙祷した後、神宮遙拝、国歌斉唱、小倉会長の挨拶が行われた。続いて塚原徳生庁長の御挨拶の後、OBを代表して第七代神田信忠会長から創設の経緯や苦心談とともに七十周年記念事業の成功と青年会

三重県神道青年会が昭和二十四年に創立されてより、七十周年を迎えます。この節目を祝い、次の記念事業を展開しています。

に対する激励の言葉を頂戴した。その後、会長より役員紹介や現在の活動状況や七十周年記念事業の内容と予算についての説明が行われ、最後に六十周年の時に制作した三重県神道青年会歌「輝け、夢高く」を合唱し終了した。続いての懇親会では諸先輩方と膝を交え、貴重な話を拝聴する絶好の機会となり親睦を深め合った。



教化資材作製

教化資材品として、普段使い出来るものを、と考えてA4サイズの見開き型クリアファイルを作製。片面は今回のために神道をイメージさせる独自のイラストを使用し、もう片面には「伊勢神宮と神宮大麻」「氏神さま」「人生のまつり」について説明。皆さまに広くご活用頂けることを願っています。

平成二十九年定例総会開催

四月十八日(水)、神社庁会議室に於いて来賓三名、会長以下十二名出席のもと定例総会が開催された。

開会儀礼に続き、来賓の塚原徳生神社庁長、村田正和神社庁青年会担当理事、伊室吉樹三重県庁青年協議会会長より祝辞を頂戴した。

その後議事に入り、平成二十九年年度の会務報告、会計決算・監査報告が行われ承認された。次に、平成三十年度の活動方針並びに事業計画案・同予算案が上程・議決された。引き続き、当会創立七十周年を翌年に控えた記念事業計画案並びに予算案も上程され、承認を得て、定例総会は滞りなく閉会した。



神青協 創立七十周年記念事業

北方領土早期復帰祈願祭

去る五月二十三日、二十四日にかけて、北海道は根室の地へと赴き、神青協創立七十周年事業「北方領土早期復帰祈願祭」に参加した。本州とは景色の異なる北海道をバスで行く道程、広大な大地を眺めながら進んだが、いざ北方領土近くの地域へ踏み入れると、「返せ！北方領土」などと書かれた看板が街の至る所に確認でき、領土問題が現実のものとしてそこにあることを肌で感じられた。

まず根室金刀比羅神社を正式参拝した後、根室商工会議所にて北方領土問題についての研修会が行われた。地元高校生たちによる「北方領土出前講座」に続き元島民の方の講演を頂き、北方領土の地理や歴史、風土や現状、また元島民としての想いなど、この問題に直面する方々の気持ちに触れることが出来た。何よりも、地元の高校生たちが自らの意思で北方領土問題の研究会を運営し、今回のように出前講座を開催していることに驚かされ、この問題に対する想い



や意識の高さに感銘を受けた。

二日目はいよいよ祈願祭斎行の日となり、全国より佐野会長以下六十二名の青年神職が参列した。祭典は納沙布岬鎮座の納沙布金刀比羅神社境内の「北方領土の碑」を前に、早期復帰の想い一つに滞りなく斎行された。生憎の天候で納沙布岬から四島を望むことは叶わなかったが、その先の北方領土に思いを致し、我が国の問題であることはもとより、故郷を奪われた方々がおられることを思えば、我々は少しでもこの問題についてさらなる啓発をすべきであると気持ちを改め、根室の地を後にした。(吉田実生記)

会務報告

- 〔平成三〇年四月〕
- 一八日 平成二十九年定例総会 会長以下二名出席 神社庁
- 一八日 定例総会後懇親会 会長以下二六名参加 津市内
- 二二日 三重神青創立七〇周年記念事業「御田植祭」 会長以下一〇名奉仕 鈴鹿市内
- 二六日 第七〇回神青協定例総会 会長以下三名出席 神社本庁
- 〔五月〕
- 一七日 第一回役員会 会長以下一七名出席 神社庁
- 〔六月〕
- 二六日 第二回役員会 会長以下一八名出席 神社庁
- 〔七月〕
- 四日 新職員交流会 会長以下三二名参加 伊勢市内
- 四日 福祉活動「白塚海浜清掃奉仕」 芝副会長以下六名参加 白塚海岸
- 一七日 神宮神青との合同研修会 会長以下八名参加 神宮司庁
- 二八日 三重県庁青年協議会との合同研修会 会長以下八名参加 結城神社
- 〔八月〕
- 一〇日 第三回役員会

新職員交流会

七月四日(水)、伊勢市内の「三重交通Gスポーツの杜伊勢」体育館本館に於いて開催された。会長以下三十二名(新職員十八名)が参加し、各チームに分かれ、ソフテーパーラーを楽しんだ。

どのチームもゲームの回を重ねるごとに白熱した試合となり、最後には三橋副会長率いるチームが優勝を手にした。

その後、猿田彦神社に会場を移し、表彰式並びに懇親会が開催された。会長より歓迎の挨拶、続いて表彰式、新職員の挨拶が行われた。心一つにし、共に汗を流すことによって、

同じ三重県下にいる若手の神職同士交流をはかり、絆を深めることができた。

(菅原工記)



神宮神青との合同研修会

皇室のおまつりと御大礼の諸儀

七月十七日(火)午後五時半から、神宮会館講堂棟第一会議室にて神宮神道青年会と三重県神道青年会の合同研修会が開催された。

講師には神宮宮掌の中西直樹先生を招き、「皇室のおまつりと御大礼の諸儀」と題して講義を賜った。

講義に先立って神宮神道青年会西本会長と三重県神道青年会小倉会長が挨拶を述べ、来たる御代替わりに際して、皇室で執り行われる諸儀式や行事について、一層見識を深める必要性が説かれた。

続いて、中西先生から、皇室の祭祀と御大礼の儀式的概要に加え、天皇皇后両陛下、皇太子殿下がお召しになる装束等を平易に講義いただいた。

先ず祭祀の説明から入り、宮中三殿・山陵・伊勢の神宮・勅祭社で行われる祭祀が主に宮中祭祀(皇室祭祀)であることを述べつつ、資料を紹介しながら、その歴史的な説明も頂戴した。

また、宮中三殿は、他の神社と



は違い正中の次に尊いのは向かって左であることや、掌典職は宮内庁の組織とは別の内廷(陛下)の組織として、掌典長始め二十五名で皇室の祭祀をご奉仕されていることを丁寧に解説いただいた。恒例の祭典また御大礼の諸儀式の際にお召しになる装束についても触れられ、中でも御祭服は最上位の装束で新嘗祭、大嘗祭のみお召しになることを強調された。最後に大正・昭和と平成の御大礼の相違点を挙げられ、大きな拍手の中で講義は終了した。

その後、懇親会が催され、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換の場となった。今回の研修を通じ、神祀りへ捧げられる大御心の尊さに改めて感銘を受けた。

(中島康博記)

- 会長以下一四名出席 伊奈富神社
- 一八日 第三九回お宮の子供会 会長以下一八名参加 伊奈富神社
- 二二日 神宮・南部ブロック研修会 会長以下二五名修了 二見興玉神社
- 二九日 神青協夏期セミナー 五名参加 神社本庁
- 〔九月〕
- 三日 北部ブロック研修会 三橋副会長以下一五名修了 桑名神社
- 六日 中部ブロック研修会 会長以下八名修了 神社本庁
- 一八日 三重神青創立七〇周年記念事業 歴代役員OB会 会長以下四七名参加 津都ホテル
- 二五日 第四回役員会 会長以下一三名出席 神社本庁
- 〔十一月〕
- 二日 第五回役員会 会長以下一五名出席 神社本庁
- 二〇日 神青協臨時総会 会長以下四名出席 神社本庁
- 二九日 神宮大麻頒布促進運動 会長以下一六名参加 四日市采女地域
- 〔十二月〕
- 六日 第六回役員会 会長以下一六名出席 神社本庁

福祉活動

「白塚海岸清掃奉仕」



七月十四日（土）、三重県漁業協同組合連合会などが主催する白塚海岸清掃に六名が参加、午前七時より海岸線でゴミ拾いを行った。自然物と人工物とに分別しながら回収するなか、本来海に在るべきものではないと不法投棄を嘆きながら拾っている姿も見受けられた。

昨年よりこの清掃活動に参加しているが、休日開催で社務多忙ということもあり参加会員が中々集まらず、少数奉仕が現状である。次年度は十人以上の参加を目標に掲げ、福祉活動に貢献していきたいと考えている。今年も、他の職種の方々との交流の場として非常に有意義な時間を過ごす事が出来た。次年度には、より多くのご参加頂く事を切に願うものである。
(西場俊介記)

氏青との合同研修会

七月二十八日（土）、津市藤方御鎮座の結城神社（宮崎吉史宮司）に於いて、氏子青年会との合同研修会が開催された。

この研修会は、例年開催しており、本年度は当会が企画し、例祭を始め、恒例祭典等で、神職と共に祭典奉仕のお手伝いを頂く機会も多いことから、三重県神社庁研修所祭式講師の頭之宮四方神社宮司 村田正和様をお迎えして、氏子総代が身につけて頂きたい神社祭式についてをテーマとし、三重県氏子青年会より六名、当会より会長始め九名が参加した。

先ず、村田講師より、神社祭式について講話があり、続いて、手水の作法、献撒饌での三方の受け渡しや玉串拝礼の作法を丁寧にご教授頂いた。当会の会員も微力ながら作法について、参加者へ指導させて頂いた。
なお、例年、研修会後に懇親会を開催しているが、本年は台風接近の為、取りやめた。神職として、氏子として、それぞれの立場で意見交換できる貴重な機会である為、

中止となったことは非常に残念であった。
しかしながら参加頂いた氏青の方々より、「いつも、簡単そうに作法しているが、意外と奥深い」等のお話もあり、神社祭式を知って頂く良い機会となったと思う。
(福井健士記)



第三十九回お宮のこども会

八月十八日（土）・十九日（日）、鈴鹿市稲生西鎮座の伊奈富神社（吉田恵子宮司）を会場に、今年も三十四名と大変多くの小学生が参加して開催された。

一日目はまず正式参拝を行い、境内を散策。伊奈富神社の歴史や由緒とともに、一般的な神社に関する知識などを青年会員が教えながら教化に努めた。そして料理体験では、それぞれ子供たちが夕食の準備として包丁で野菜を切り刻んだ。大小の具材が入ったカレーライスを皆楽しく美味しく頂いた。



(吉田実生記)

神青協夏期セミナー

「転換期にたつ我ら、世論を喚起するために」と題して、八月二十九日（水）・三十日（木）の両日、本社本庁において開催された。当会より四名が参加した。

これは皇室への関心が高まる現在、皇室の永続的尊厳護持のため、自主憲法への道筋をたてるべく、問題意識の喚起にとめる役目を担うのは青年神職において他にはないとして、その資質向上・人材育成を目的として催された。

初日の第一講は神道政治連盟会長の打田文博先生より「平成の御代替りと憲法改正運動」と題して、此度の御代替りの日程を平成の御代替りと比較しながら概略を説明された。また今後の憲法改正への道筋を示しつつ、その思いを語られた。
第二講は神道政治連盟首席政策委員の田尾憲男先生より「国体、皇室・神社・国家・臣民の道」と題し、我が国の国柄を多角的な視点で解説して頂いた。
第三講は國學院大學名誉教授の大原康男先生「次の御代替りの諸儀について」と題した講演で、明

六日 忘年会

会長以下二四名参加 津市内

〔平成三一年一月〕

二二日 第七回役員会

会長以下一七名出席 猿田彦神社

二二日 新年会

会長以下三一名参加 伊勢市内

〔二月〕

五日 建国記念の日啓発活動

(北部ブロック) 会長以下一〇名参加

六日 建国記念の日啓発活動

(中部ブロック) 近鉄四日市駅前

八日 建国記念の日啓発活動

(神宮・南部ブロック) 会長以下一〇名参加 宇治橋前

〔三月〕

六日 三重神青創立七〇周年記念式典打合せ会

会長以下一八名出席 本社庁

二二日 県外研修会

会長以下五名参加 栃木県内

二二日 神青協中央研修会

会長以下五名参加 茨城県内

一九日 第八回役員会

会長以下二〇名出席 本社庁

二五日 三重神青創立七〇周年記念式典

会長以下一二三名出席 四日市市内

治の皇室 典範を踏襲した昭和の皇室

典範に基づいた平成の御代替りは、法制上の不備や過剰な政教分離への配慮から、本来の諸儀とは異なっていました。経緯を解説頂いた。

翌日の第四講は「日本らしい国づくりに向けて」という演題で、日本政策研究センター代表の伊藤哲夫先生より講演を頂いた。現行憲法では差し迫った国難には到底対処できない根拠を解説、その欠陥性を明示した。その上で国柄を反映した自主憲法の実現と先ずは現実的な憲法改正について話された。

各先生の講演は、平成の御代替りの現場を経験されたり、論議の最前線でご活躍されたりしておられる方の講演だけあって緊迫感が伝わり、我々青年神職が邁進すべき心構えを自覚させられた研修であった。
(横山昌佳記)





北部ブロック研修会

- 中部ブロック
- 一、日 時 九月六日(木)
- 一、場 所 三重県神社庁
- 一、参加人数 八名
- 一、研修内容 英会話研修



神宮・南部ブロック研修会



中部ブロック研修会

- 北部ブロック
- 一、日 時 九月三日(月)
- 一、場 所 桑名神社
- 一、参加人数 十五名
- 一、研修内容 北部の神社と深く関わる神事・文化財を学ぶ
〔国指定無形民俗文化財
石取祭に見る進化と退化〕
- 神宮・南部ブロック
- 一、日 時 八月二十二日(水)
- 一、場 所 二見興玉神社
- 一、参加人数 二十五名
- 一、研修内容 神社業務への心理
学応用



中部ブロック



北部ブロック

- 北部ブロック
- 一、日 時 二月五日(火)
- 一、場 所 近鉄四日市駅
- 一、参加人数 十名
- 一、配布数 七〇〇袋
- 中部ブロック
- 一、日 時 二月六日(水)
- 一、場 所 津新町駅西口
- 一、参加人数 四名
- 一、配布数 三〇〇袋
- 神宮・南部ブロック
- 一、日 時 二月八日(金)
- 一、場 所 宇治橋前
- 一、参加人数 十名
- 一、配布数 一、七〇〇袋



神宮・南部ブロック

第十七回 ブロック研修会

東海地区総会並教化研修会

九月十一日(火)～十二日(水)の日程で神道青年東海地区協議会総会並びに教化研修会が、岐阜護國神社・岐阜メモリアルセンターにおいて、来賓を始め青年神職同士の八十二名の参加で開催された。

今年の研修会では、『清流と共息づく伝統と文化』『世界に誇る鶴飼と岐阜の遊宴文化』とし、川漁師 結の舟(ゆいのふね)代表 平工顕太郎氏・鳳川伎連(ほうせんぎれん)代表 鳳川喜久次氏のお二人に講師を務めて頂き御講義頂いた。

第一講義では、国指定重要無形文化財「長良川鶴飼」に関わる様々な事を学び、天然アユの生態・伝統継承の難しさ・自然相手の厳しさなど新たな知識を得る良い機会になった。しかし、懇親会で予定されていた鶴飼船の体験は、前日までの雨による増水の為中止になり残念であった。

また第二講義では、遊宴文化について学んだ。普段宴席に出る機会はあるもののその正確な知識や作法はあったもののマナーを学ぶ機会は無かったので、非常に興味深いものであった。今後宴席に出る機会にはこの度学んだ事を実践できればと考える。



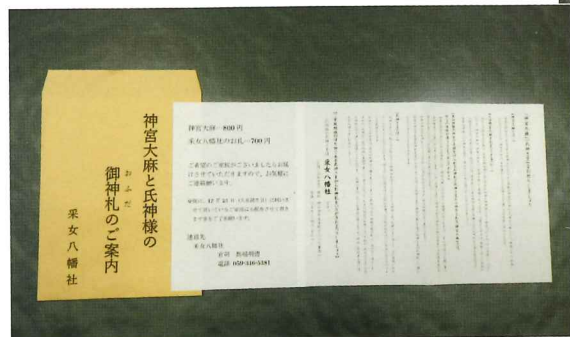
翌日には、親睦行事が行われた。本年は岐阜県発祥の「ソフティバレーボール」が盛大に行われ、東海地区青年神職の絆を深めた。本年は三重県が優勝し幕を閉じた。(増田秀磨 記)

神宮大麻頒布促進活動

十一月二十九日(木)、四日市市采女町に鎮座する采女八幡社(馬場明德宮司)に於いて、昨年に引き続き神宮大麻頒布促進活動を行い、会長以下十名・神宮研修所の学生六名の計十六名が参加した。

河原田神社に集合したのち、采女八幡社へ移動、正式参拝後、采女ヶ丘一丁目から五丁目までの氏子区域約八百戸に、神宮大麻頒布の広告をポステイングした。新興住宅地の為、道ですれ違う人や庭先にいらっしゃる住民の方々にご理解頂けるか不安であったが、積極的に挨拶を交わし、その中でも「おつかれさま」と声をかけて頂けると、非常に心温まる思いで活動に取り組むことが出来た。

皆様にお手伝い頂き、少ない件数ではあるが、問い合わせ二十件、新規件数十件(今年五件・去年五件)と徐々にではあるが認知されつつあり、「継続は力なり」という言葉があるように単年では無く複数年続けることが大切だと改めて感じさせられた。(馬場正徳 記)



建国記念の日啓発活動

本年は「かすみ草」の花の種配布

平成三十年度 県外研修並びに中央研修

三月十二日(火)に栃木県にて県外研修を実施、十三日(水)・十四日(木)に茨城県にて中央研修が開催され、会長以下五名が参加した。

県外研修は日光市に御鎮座される日光二荒山神社にて正式参拝が執り行われ、多田隆一権禰宜より境内地を御案内頂いた。御社殿はすべて国の重要文化財に指定され、八棟造という日光最古の建物である。平成二十五年より大修理が執り行われている最中で、近くまで見学させて頂き、その壮大さときめ細やかな漆塗り装飾が、とても印象的であった。完成は来年三月予定とのことである。

次に日光東照宮へ赴き参拝。大きな敷地はもとより四十二棟が世界遺産に登録されていることもあ



り、権現造の建築様式や彫刻や彩色等の建築装飾のきめ細やかさや漆塗りの美しさはまさに絢爛豪華にふさわしい社殿であった。日光が歴史的一幕を象徴する地であることを印象付けられた。

中央研修は水戸市にある水戸プラザホテルにて開催され、「氏子と共に歩む時〜過去・現在・未来の中で〜」を主題に二日間行われた。計三講の研修が執り行われた。

第一講は鹿島神宮宮司の鹿島則良先生を講師に迎え、水戸学を通じて神職は神様のお気持ちをおしかり御奉仕すること、そのうえで氏子と共に向き合いことの大切さを過去より学ぶことを御教授頂いた。



第二講は脳科学者の中島信子氏を講師に迎え、神道を科学的な視点から分析し、長所と短所を導き出したうえで、現代を生きる神職の在り方について御教授頂いた。第三講は三名の講師を迎え、デイ

スカッション方式で大洗町を舞台にしたアニメ「ガールズ&パンツァー」を通じて築き上げた地域との繋がりについて講演され、地域活性とは単なる経済効果が目的ではなく、アニメを通じて生まれた地域住民と観光客とが絆が生まれたことが何よりの財産であること、その関係性が未来の地域を創り上げることが御教授頂いた。



氏子と共に歩むことをあらゆる角度から学ぶことのできた有意義な研修であった。(山下真史記)



編集後記

皆様のお陰をもちまして、榊葉四十五号をお届けすることが出来ました。

四、五頁掲載の通り、三重県神道青年会は創立七十周年の節目を迎えるにあたり、主題に「繫心く大御心をいただきて〜」を掲げ、様々な記念事業を企画・展開しております。今号では、その一端となりますOB会や稲作実施、記念式典といった事業の様子も掲載致しました。

これまで諸先輩方が発案し、継続してこられた恒例の事業を含め、当会の「今」を伝えておられます榊葉を、是非御覧頂ければと存じます。

結びに、各活動及び編集に御協力頂きました関係各位に改めて御礼申し上げます。

(北川峻佑)

会報「榊葉」

第45号

平成31年3月31日

発行者 小倉孝之

編集 総務広報委員会

発行所 津市鳥居町210-2

三重県神社庁内

三重県神道青年会